



いぞおり

豊田南小学校 学校だより
第 12 号
令和4年1月6日
文責 教頭 (大場)

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

【始業式 学校長の話】

おはようございます。3学期はクイズからスタートです。

「〇〇〇、雷、火事、おやじ」〇の中に、何が入るでしょうか？

答えは、地震です。「地震、雷、火事、おやじ」これは、恐ろしいものの代名詞みたいなものです。このときの「おやじ」は「父親」の意味です。

今日は「4つのあ」の中の「安全」に関する話の第四弾、「水の事故」「アレルギー」「交通安全」に続いて、「地震」の話をしていきます。なぜ、3学期始業式で地震の話をするかというと、平成以降に起きた大きな地震が2つありますが、両方とも3学期に起きているからです。1, 2年生のポプラっ子には難しい話もあります。クイズや写真も出てくるので、分かるところに注目してください。

具体的な地震の話の前に、「M6.5」とか「M8」のように、数字の前にMがついている記号を見かけることがありますか。Mって、何を表しているかわかりますか。

答えは、マグニチュードです。地震の時によく聞く単語ですね。「震度5」とか「震度7」のような単語も、よく聞きますよね。どう違うのでしょうか。

答えです。「震度」は、「地面が揺れた強さ」です。だから、1つの地震で、いろいろな震度があります。例えば、平成21年に駿河湾を震源地にする地震がありました。東名高速道路が崩落しました。そのときのこの近くの震度は、御前崎市や牧之原市で震度6弱でした。磐田市は震度5弱でした。御前崎市や牧之原市の方が磐田市より震源地に近いので、強く揺れたのです。

そのときのマグニチュードは6.5です。これは、1つしかありません。マグニチュードは、地震自体の強さを表しているからです。

それでは、死者数が多い3つの地震を紹介します。地震に関連した死者をどこまで含めるかで、人数が変わります。今回は、東京書籍の「日本の地震地図」を参照しています。1番多いのが、大正12年に起きた関東大震災です。社会科で勉強すると思います。10万人以上もの人がお亡くなりになりました。続いて、平成23年3月11日に起きた東日本大震災で、約2万人もの方がお亡くなりになりました。3番目が平成7年1月17日に起きた阪神・淡路大震災で、6千人以上の方がお亡くなりになりました。

地震の規模は、関東大震災がM7.9、東日本大震災がM9、阪神・淡路大震災がM7.3です。東日本大震災は確かに大きな地震ですが、他の2つより大きな地震は今までにもありました。では、なぜ死者が多かったのでしょうか。

関東大震災で死者が多かった理由は、地震が起きた時刻が、昼食を作っている時間帯だったので、火事が起きたのです。加えて、台風の風が吹いていたので、火事が広がったのです。東京や横浜、ちょうど住宅が広がっている場所です。家が点々としていたら、もう少し違っていたのかもしれませんが。東京では70%以上が焼けて、横浜でも60%の住宅が焼けてしまいました。



続いて東日本大震災ですが、死因の9割は水死だそうです。やはり、津波の影響が大きかったのでしょう。津波については、昼のつどいで話をする予定です。

続いて阪神・淡路大震災です。1つ目の問題点は、やはり「大都市」ということでしょうか。関東大震災の東京や横浜と同じで、神戸市は大都市なので、ビルが乱立し、住宅が密集しています。それだけ、被害が大きくなります。神戸市の東灘区を例に挙げます。お亡くなりになった方の90%は木造家屋の倒壊で即死だそうです。地震は朝の5時46分に起き、死者の80%は、家が倒れて6時前に亡くなったそうです。

また、交通網が寸断されました。始業式で紹介した高速道路や鉄道の写真を思い出してください。人が多いだけに、交通手段がなくなるのは致命傷です。



2つ目の問題点は想定外だったということです。実は、近畿地方ではM7以上の地震は起きないと思われていたのです。だから、消防設備も震度5を想定して準備をしていました。ちなみに静岡県は震度7を想定して準備をしているそうです。震度5なら、水道は断水しないだろうと予想していました。ところが、水道管は壊滅的な打撃を受け、火を消す水がなかったのです。ちなみに、静岡県は震度7を想定し、水道は使えないと想定していて、防火水槽を各地に用意していますので、大丈夫です。

通電火災も起きました。通電火災とは、電気ストーブなどがついたまま、停電になって、電気が通ったら電気がついてしまい、火災になったということです。地震が起きたとき、停電になったとき、どのスイッチがついているか分からないので、ブレーカーを落としておけば、確実に通電火災を防げます。

災害を想定して、防ぐために、作られている物があります。それをハザードマップといいます。被害が発生しやすい場所を予想して地図に示している物です。

自分の住んでいる場所を確認したことがありますか。

南海トラフ地震という大きな地震が起きたとき、どのくらい揺れるか予想したハザードマップがあります。南小の学区の井通地区では、震度6強が中心で一部震度7があります。

天竜川が増水した時、氾濫して、豊田地区が水につかるかどうかのハザードマップもあります。南小の学区の井通地区でも氾濫する可能性がありますので、ぜひ、磐田市のホームページを見てください。

井通地区で土砂災害が起こる可能性のある箇所を示したハザードマップもあります。一言北原の西側、一言里の東側にあるがけのところは、土砂災害の恐れがあるので、地震や大雨の時は、絶対に近づかないでください。

ぜひ、磐田市のホームページのハザードマップを見てください。自分の家の近くには、どんな災害の可能性があるか確認しておく、災害が起きたとき、あわてずに済みます。阪神・淡路大震災が1月17日、東日本大震災が3月11日に起きました。両方とも3学期です。静岡県も南海トラフ地震が起きる可能性があると言われています。いつ地震が起きてもおかしくないという気持ちで備えておくと安心です。家で話題にしてくれるとうれしいですね。